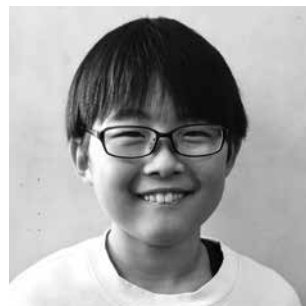


「小さな親切」運動静岡県本部賞

小さな親切

浜松市立広沢小学校 五年

添田 慶



もうすぐで夏休み突入だ！と少し浮かれ始めていた頃、小学校の図書室で夏休みに読む本を二冊借りることになりました。

どれにしようか辺りを見回していると、たまたまある絵本を見つけました。それは、昔ばくがお母さんに読んでもらって好きになった絵本でした。ぼくは数年ぶりに見つけて嬉しくなったのでそれを借りました。そして、妹にも読んであげたいと思いながら家に持ち帰りました。

お母さんに借りてきた絵本を見せると、なつかしがつていま

した。ぼくが妹に読んであげたところ、妹は、「ありがとう。」

と言って楽しそうに絵本を見ていました。

その絵本は、『王さまライオンのケーキ。はんぶんのはんぶん、ばいのばいのおはなし』という、楽しく読みながら算数の勉強にもなる絵本です。沢山の動物達が出てきてとてもおもしろく、内容も好きだけど、絵も味があつてぼくは大好きです。お母さんは、絵本を読んでいるぼく達二人の様子を見て、とても喜んで

でいました。そして、ぼくに向かって、

「慶くんナイス！グッジョブ！」

とほめてくれました。なぜなら、お母さんは今年の夏休み中に、妹に分数を教え始めようかと考えていたらしいのです。ぼくはナイスタイミングで妹のためになる絵本を借りてきたのでした。でも、まさかお母さんにほめられるとは思っていませんでした。

ぼくが絵本の中のケーキを妹に見せながら分数について話をしていると、お母さんが、

「近々ピザを買ってきて、みんなで美味しく楽しく分数を学ぶのはどう？」

と嬉しそうに提案してきました。たしかにピザなら八分の一ずつ食べてる！とぼくも改めて気づきました。

妹に絵本を読んであげようと思ったぼくの小さな親切が、妹には中くらいの親切となって伝わり、お母さんには大きな親切となって何倍にも増して伝わったみたいでした。まさにばいの子です。しかも美味しい楽しいピザパーティーが決定しました。ぼくはとても嬉しくなりました。そして親切とは、タイミングや相手の受け取り方によって、感謝されたり、時には余計なお世話と受け取られたりもする、ものすごく不思議なものだということに気がきました。ばいの子になったり、はんぶ

んのはんぶんになったり、プラスにもマイナスにもなったりと複雑だけど、シンプルに考えるととても素敵なものです。あまり深く考えたことはなかったけど、今回の作文を通して親切についてじっくりと考えることができました。これからは、さりげなく小さな親切をできる人になりたいと思いました。



「小さな親切」運動静岡県本部賞

何気ない気遣い

静岡県立浜松西高等学校 中等部 三年

伊藤 希恵



祖母の車椅子を押していた時のことである。「ゆっくりでいいですよ。」この言葉が、私の「急がなくては」という焦りを軽減させた。

学校が休みである平日は、よく祖母と外出する。祖母は足が弱く、ショッピングでは、車椅子を使う。私は、祖母が喜んでくれることが嬉しいので、よく車椅子を押す。当たり前のことだが、車椅子で階段やエスカレーターを利用するのはほぼ不可能であり、違う階に移動するときはエレベーターを使っている。

大抵のエレベーターは、車椅子が一回転できるような広さではないため、エレベーターを降りるときは、後ろ向きで降りることになる。約二十年程前に、車椅子ユーザーのための、鏡がついているエレベーターがつくられ、今では至るところに見かける。振り向かなくても、鏡で後ろの様子を確認することができるようのだ。このような工夫が施されていても、やはり、降りるときは少し慎重になる。今まで車椅子を押していて、エレベーターに乗り合わせた多くの人が、降りるときに、「開く」ボタンを

押して「お先にどうぞ」と声をかけてくれた。このような親切が、私を温かい空気で包んでくれる。このような気遣いに感謝しながらも、心のどこかで、「待たせているから、なるべく早く降りなければ」と急いでしまう自分がいる。焦ると、車椅子の操作が少々荒くなってしまう。車椅子に乗っている側も、進むスピードが速かったりすると、転倒しないかなどと、不安な気持ち芽生えてしまう。焦りが、お互いの気持ちをマイナスにさせる。

ある時、エレベーターから降りようとする、同じく乗っていた男性が、「開く」ボタンを押して、「どうぞ」と手で合図をした。会釈をしながらバックしていると、「ゆっくりでいいよ」という声が聞こえた。「えっ」と思っただけで、先程の男性が微笑んでいた。私も自然と笑顔になった。その瞬間、「早くしなくては」という焦りがなくなり、落ち着いてエレベーターから降りることができた。祖母もゆったりとした表情であった。少し時間はかかっても、自分だけではなく、周囲の人も安全に乗り降りすることができる。

それまでの親切な行動をより深くしていくような言葉。たった十文字で人の焦りを解消できる。もしかしたら、あのときの男性は、「親切」などはあまり考えずに何気なく発していたかもしれない。しかし、その言葉が、私や、周りの人の気持ちを

少しでも明るくした。日々の生活は、親切な行動で満ち溢れている。親切な行動は、した人、された人、その周りの人を幸せにする。中には、意識していなくても、行動に移せることがある。常に自分を他人の立場に置き換えて、何気ない気遣いができるようになっていきたい。

